

国を変えるスポーツ ～ニュージーランドにおける人種差別、ラグビーとハカ～

Sport power to change the nationality ～ Racial discrimination in New Zealand rugby and haka～

1K10C118-9 垣永 真之介

主査 寒川恒夫 先生

副査 島田陽一先生

第一章

今現在、世界ではまだ多くの国が戦争などの争い、人種における差別の問題を抱える国は多くある。その中でも国が抱える問題。人種差別においては先進国でもまだ多く依存している問題である。この人種差別の問題をスポーツを使って克服し、今では何の問題もなく生活している国がある。先日亡くなられた南アフリカのマンデラ氏、元大統領の実話を題材とされ映画化された「インビクタス」で見られるように南アフリカはスポーツ、ラグビーにより人種差別の解決のきっかけになった。もうひとつラグビーを利用して人種差別を解消した国がある。それがニュージーランドである。ニュージーランドでも先住民のマオリ人とイギリスから移民してきた白人との争いが絶えなかった。争いや人権が失われつつあったマオリ人の偏見や差別の撤廃のきっかけになったのがニュージーランドの国技であるラグビーであった。私は以前、ニュージーランドにラグビー留学した経験がある。日々過ごす生活の中で人種関係なく当たり前のように接し仲良くする光景が不思議に見えたことがある。それはなぜなのか。そして人種関係なく全ての国民が熱狂するラグビーに何か関係があるのだろうか。その答えを考えるべくこの研究に取り組む。

第二章

ニュージーランドとはオセアニアに属する国で日本に似たような形をしている国である。ニュージーランドには国ができる前に先住民が存在した。マオリ人と島国から移動してきた民族のことである。最初にオランダのタスマン、そしてイギリスのクック船長を始めヨーロッパ諸国の人々が次々の上陸することになる。そして先住民のマオリ人と移民してきたヨーロッパ系の白人との長い戦いの歴史が始まった。色々な問題からイギリスの協力によりニュージーランドが建国されるも時が経つごとに減少していくマオリ人、そして権力も失い偏見や差別を生むことになった。時代とともに現在に至るまでさまざまなマオリ人の差別撤回に対する努力、運動がそこにはあった。

第三章

現在ニュージーランドでは全国民が熱狂するほどのスポーツがある。それがラグビーだ。世界ランクでも1位であり世界でも不動の人気を誇っている。なぜそこまでラグビーが強くなったのか。ニュージーランド代表、オールブラックスの輝かしい歴史がニュージーランドを今でも熱狂させている。

第四章

ニュージーランドの国際チームの多くが試合前にハカを踊る。ハカとはマオリ人の伝統舞踊である。マオリ人があれほど差別され人権もなかったような時代があったにも関わらずなぜ国を代表する試合でマオリ人の伝統舞踊ハカを踊るのか。このハカを最初に取り入れたスポーツがラグビーだ。ジョージネピア。ニュージーランドのラグビーをする者ならだれでも知っている有名なマオリ人の選手だ。ジョージネピアの活躍が大きくマオリ人を容認するきっかけとなりオールブラックスにハカを取り入れた人物である。この時代のころから徐々に世間ではマオリ人の差別や偏見が緩和され解決の方向に向かっていた。

第五章

前述したように考察としてラグビーが差別の緩和に役立ったと述べたが実際には現在ではどのような状況なのか。現地に20年以上住む竹内さんとニュージーランドで生まれずっと住み続けているマークさんにお話を伺うことができた。

第六章

普通に考えればスポーツごときであるが、スポーツは間違いなく国を変える力を持っていた。スポーツにはさまざまな力がある。言葉じゃ説明できないような力を秘めていることがわかった。私もこれから十年以上ラグビーを続けるつもりだ。この素晴らしいスポーツで私自身何かできることはないか考えてこれからラグビーに取り組んでいきたい。